

岡山大病院で「ふれあい看護体験」

糖尿病患者が使う注射について説明を受ける丸岡美紀さん(左)。「カルテってどんなのですか」と熱心に質問をしていた岡山市北区



やりがい肌で

12日は看護の日。岡山大学病院(岡山市北区)で行われた「ふれあい看護体験」に、女子高生といっしょに参加した。(塩野浩子)

「髪はまとめて下さい」

黒木美津江・副看護部長の一言で、そこがおしゃれとは無縁の医療現場、と知る。ロングヘアの子はゴムで縛ってまとめ髪に。制服やジャージの上に、白い予防着をつけると、県立倉敷天城高、倉敷青陵高の3年生16人が「ナースの卵」に変身した。

形成外科や婦人科など8班に分かれ、入院棟へ。記者は、倉敷天城高の丸岡美紀さん(17)と、腎臓・糖尿病・内分泌内科へ向かった。47床、病棟医17人、看護師26人の大所帯だ。

まずは70代男性患者の個室で、看護師の介助を見守った。「ちよっとぬるい?大丈夫?」。洗面器に張った湯で足指の間を丁寧に洗いながら、何度も話し掛ける。

次に、透析治療中の70代女性の洗髪を手伝った。首にカテーターが入っているため洗髪は看護師の仕事だが、丸岡さんはドライヤーを任せられた。「どれくらい乾かしたらいいですか?」と慎重に風を当てていると、看護師が「患者さんをリラクセスさせながら、体の具合の確認もしているのよ」と教えてくれた。

「あこがれる」高校生「やあ、助けて、患者さん」

「若い人がいると元気が出ますねえ」とうれしそうなお女性の言葉が印象に残った。

小学生の頃、家族の交通事故を機に医療を志したという丸岡さんは「緊張しました。看護師さんはあんなに患者さんに話しかけてるのに……。でも、設備もすごいし、将来ここで働けたら」と目を輝かせていた。

産科を見学した倉敷青陵高の3人は、生後まもない赤ちゃんを抱かせてもらい、「可愛かった!」「柔らかかった!」と感動しきり。3人とも看護師志望で、分娩台にも上がってみたいという。高杉優さん(17)は「スタッフのみなさんの笑顔に癒やされた。あこがれます」と話した。

反省会では「立ちっぱなしでしんどかった」「看護師さんは思った以上に細かく気配りしていた」「苦しそうだけど、やりがいがありそう」という声が上がっていた。

県看護協会によると、県内で働く看護師は約1万8千人(2008年末)。岡山大学病院には約890人の看護師がいる。同病院の黒木副看護部長は「チーム医療の大切さを肌で感じてもらえたのでは。進路選びの参考にしてほしい」と話した。

「ふれあい看護体験」は、県内36の病院・施設で、一般の人を対象に15、16日(るまで)行われている。